

各講座の詳細・スケジュール

回	日程	講師	内容
1	4/20	舟杉真一 (フランス語)	「異文化理解」とは？ 身近な例を取り上げ、異文化を理解し、楽しむ方法を一緒に考えてみましょう。
2	4/27	レベッカ・カルマン (英語)	生まれながらに文化を持っている人はいません。他の文化と同様、アメリカ文化も学習されるものです。文化とは、ある集団が共有する信念や習慣のことです。文化には過去があり、時間とともに変化し、人々と歴史を結びつけます。食べ物、教育、芸術、衣装、言語、信念、宗教的思想、倫理といったアメリカの文化がどのように生まれてきたのかを考えてみましょう。
3	5/11	ラシェル・メイヤー (英語)	カナダは世界で2番目に大きな国でありながら、より影響力の強い隣国アメリカの影に隠れがちだ。歴史や地理から、多文化主義、スポーツ、ポピュラー・メディアといった現在の影響まで、さまざまな要素を検証しながら、カナダ独自の文化がどのように発展してきたかを見ていこう。
4	5/18	伊藤秋仁 (ブラジルポルトガル語)	自宅学習(事前課題) 日本にも外国人の人たちが増えています。彼女ら/彼らはいったいどんな人たちでしょう？ 彼らは日本に何を求めてきているのか調べてみましょう。
5	5/25	伊藤秋仁 (ブラジルポルトガル語)	ブラジルは世界でも有数の多民族国家です。日本もずいぶん多様化してきましたが、国の成り立ちや現状はブラジルと日本では大きく異なっています。「移民」をテーマに国民国家とは何なのか、この先の日本はどうなっていくのか一緒に考えます。
6	6/1	立岩礼子 (スペイン語)	スペインではアラブの影響を受け、ほかのヨーロッパ諸国と異なる芸術が開花しました。私たちが知っているフラメンコや闘牛といったスペインのイメージがどのように作られたのか、考えてみましょう。
7	6/8	ロマン・ジョルダン (フランス語)	フランス語は世界5位の話者数(3億2千万人)を持ち、英語と同じく5大陸で使われています。価値観を共有しつつ多様性を尊重するフランス語圏(フランコフォニー)について、世界の歴史と地理と共に学びましょう。
	6/9	京都外大オープンキャンパスのミニ講義に参加。 ※参加は必須ではありませんが参加された場合は評価に反映されます。	
8	6/15	菱川邦俊 (ロシア語)	自宅学習(事前課題) ロシアの少数民族について調べ、身近にある多文化共生社会について考えてください。
9	6/22	菱川邦俊 (ロシア語)	多民族・多文化共生の社会:ロシアの場合 世界で一番広い国土を持つロシア。そこには200近い民族が住んでいます。ロシア各地のさまざまな人々の暮らしや風土を通じて多文化共生社会について考えてみましょう。
10	6/29	羽根田知子 (ドイツ語)	誰でも知ってる(?)年末恒例のベートーベン「第九」と、みんな大好きな(?)パームクーヘンを手がかりに、日本とドイツの奇跡的な歴史上の一コマを学びましょう。
11	7/6	彭飛 (日本語)	軽妙な語り口でことば、習慣、外国人との付き合い方、不思議な日本語などについて、クイズや質疑応答の形で、「異文化理解」の重要性をお話します。
12	7/13	岡本俊裕 (中国語)	ひとつの国での、たくさんの言語 シンガポールは淡路島くらいの小さな国ですが、そこでは4種類の言葉が使われています。でも、日本はシンガポールよりはるかに広い国なのに、日本語だけで十分です。これはなぜ?.....中国をサンプルに言葉と国家について考えてみます。
13	7/20	岡本俊裕 (中国語)	言語の“家族”は国境を越える 英語は学びにくい言語でしょうか?多くの高校生は言うでしょう、“Yes!”と。でもロシア語は、英語よりもずっと難しく学びにくい。なぜなんだろうか、この学びにくさの違いは?.....言語の“家族”という視点から、外国語学習の難易度を考えてみます。
14	7/27	近藤直樹 (イタリア語)	グローバルとローカルのポピュラー音楽、イタリアとアメリカの場合 19世紀後半から20世紀初頭にかけて、当時「音楽の国」であったイタリアから大量の移民がアメリカ合衆国に向けて旅立ち、様々な文化的交流が生まれました。そんなアメリカのイタリア移民と音楽の関係を通じて、グローバルとローカルとは何かを見直してみましょう。

※後期日程: 9/21,9/28,10/5,10/12,10/26,11/9,11/16,11/30,12/7,12/14,12/21,1/11,1/18,1/25 (内容は前期と同じになります)
 ※試験・評価方法: 毎回授業終わりに課題を出しますので、それらを総合的に評価します。